群教セ	G01 - 03
	平14.207集

場面に応じて自分の考えを明確に表現する生徒を育てる国語科指導の工夫

――「話す・聞く」行為を振り返る活動に『グループワーク・トレーニング』を取り入れて――

特別研修員　　木檜　徳子　（吾妻町立岩島中学校）

《研究の概要》

本研究は、話合い活動に、「グループワーク・トレーニング」で自分たちの「話す・聞く」行為を振り返る活動を取り入れることで、場面に応じて自分の考えを明確に表現する生徒が育つように指導の工夫をしたものである。具体的には、グループで情報を模擬的に伝え合い、振り返り、判定し、言葉を選び表現を工夫することの難しさや面白さ、聞き分けることの大切さを実感できるよう、指導の工夫を行った。

【キーワード：国語－中　話すこと・聞くこと　ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ･ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ　振り返り　場面意識】

Ⅰ　主題設定の理由

本校の生徒は話をすることが大好きである。学習活動でも、元気よく挙手して発言する。しかし、生徒総会や行事の全体会といった場面では、自分の考えを発表することはできるが、話し手の発言に基づいて意見を発展させて述べることが苦手であったり、話し手の発言に注目して意見を述べていても、話合いがかみ合わなかったりする。その要因を聞き手の側にあるのではないかと考え、今年度の校内「少年の主張」発表会の折に、聞き手が話し手の意図をどれくらい正確に聞き取ることができるか、審査用紙に記入する時間を設けてみた。『発表者が一番言いたいことは何でしょう』の欄に、学級の半数の生徒が、話し手が挙げた印象の強い事実を記入していた。これは、事実と意見を聞き分けることができず、印象の強いものに耳をうばわれ、話し手の意図をとらえることができなかったからと考えられる。また、時間内では無解答の生徒もあった。これは生徒が、日ごろ話をするとき、どうすれば効果的に自分の考えを伝えられるか意識していないため、聞き手として聞くときにどこが重要なのか的が絞れず、記入できずに終わったものと考えられる。日常、ほとんどの会話が文章ではなく、短い単語で行われる傾向にある言語生活にも一因があると思われる。そこで、話し手となったとき、自分の考えを、聞き手が理解できるような表現でまとめて伝えられるような生徒、また、聞き手となったとき、話し手の発言を聞き分け、聞き分けた内容をふまえて自分の考えを深められるような生徒を育成したいと考えた。

場面に応じて自分の考えを明確に表現することは、昨年度、説明的文章の学習において「生徒の感じた疑問を生かした学習課題を設定し、お互いの読みを交流する活動」を取り入れ指導してきた。その活動の中で、生徒は筆者の意図を読み取り、自分が何を学習課題と考えるか積極的に発言していた。話し手は、自分があらかじめ用意してきた意見を根拠を挙げ理論立てて述べることができていた。また、人の意見に対して自分の考えを懸命に述べていた。しかし、その活動はなかなか深まらず、「話合い」ではなく単なる「言い合い」に終わってしまっていた。その理由は、人の発言を意見なのか事実なのか正確に聞き分け、聞き分けた内容をふまえて自分の考えを明確に話すことができていなかったためである。

「話合い」を成立させるためには、話し手となったときに聞き手を意識し、自分の考えを明確に表現する必要がある。また、聞き手となったときは、重要な言葉に着目し話し手の意図をとらえて聞く必要がある。「話合い」は「相互に啓発し合ってよりよい考えを生み出す」ために行う行動である。その活動を通じて一人一人の考えがまとめられ深められていく点で重要である。

これまでの指導・支援を振り返ると、その重点は「ディベート」「バズセッション」といった具体的な活動の形式を教えることにあった。話す側の「どのように話すか」の指導を重視し、「言いたいことの中心は何か、それを表すのにふさわしい言葉は…」といった自分の考えを明確に表現するための指導が不十分であった。また、聞く側の指導も「大事なことをメモをとりながら聞きなさい」「話題の中心に心を集中して聞きなさい」といったもので、「何が話題の中心か実際に聞き分ける」ことや「話題の中心について自分の考えをまとめて発言する」ことについて具体的な指導をしていなかったのである。自分の考えを明確に表現する生徒を育成するためには、指導者によって相手意識の大切さやメモすることの必要性を一方的に教授するのではなく、生徒が自分の言語行為を自ら振り返り、改善できる力をつける必要がある。

そこで、本研究では、話合いの学習の「話す・聞く」行為を振り返る活動に『グループワーク・トレーニング』（以下ＧＷＴとする）を取り入れた。生徒は、ＧＷＴを行い、話し手・聞き手・観察者という三つの立場から、自分たちの「話す・聞く」行為を振り返る。そのことによって、なぜ、話し手の表現が聞き手にうまく伝わらなかったか、又は伝わったか、聞き手はなぜ話し手の意図をとらえることができなかったか、又はできたかを客観的に理解する。そして、場面に応じた明確な表現に必要なものに気付くことができる。次に、振り返りで気付いたことを生かす活動を設定した。それを通して、生徒は「話す・聞く」行為を意識して行うようになる。さらに、ＧＷＴで培った力を基に実践的な話合いをし、振り返る活動を行うことで場面に応じた明確な表現を実感し、話し手は言葉を選び、表現を工夫して自分の考えを伝えるようになる。聞き手は言葉に着目し、話し手の意図をくみ取り、場面に応じて自分の考えを明確に表現するようになると考える。

以上のことから、話合いの学習で「話す・聞く」行為を振り返る活動にＧＷＴを取り入れれば、場面に応じて自分の考えを明確に表現する生徒を育てることができると考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

「話す・聞く」行為を振り返る活動に、グループワーク・トレーニングの振り返りの手法を取り入れることが、場面に応じて自分の考えを明確に表現する生徒を育てるために有効であることを、実践を通して明らかにする。

Ⅲ　研究の見通し

１　つかむ過程で、「話す・聞く」という行為にとって重要な言葉や表現の工夫に気付くよう、グループで情報を模擬的に伝え合い、自分たちの「話す・聞く」行為を振り返り判定する活動を行えば、場面に応じた表現に必要なものに気付くであろう。

２　深める過程で、言葉を選び表現を工夫することの難しさや面白さ、聞き分けることの大切さを実感できるよう、振り返りで気付いたことを生かす、グループでの模擬的な伝え合いの

場を設定し、振り返り判定する活動を行えば、明確な表現とは何かをつかむであろう。

３　迫る過程で、ＧＷＴで培った力をもとに意識して言葉を選べるよう、グループでの実践的な話合いの場を設定し振り返る活動を行えば、場面に応じた明確な表現をするであろう。

Ⅳ　研究の内容と方法

1　研究の内容

(1)「場面に応じて自分の考えを明確に表現する」とは

「場面に応じる」とは、特に話合いの場面で、それぞれの発言を聞き分け、話題や話の方向性を理解し、それをふまえて自分の考えを広げたり深めたりすることである。つまり、場面に応じて自分の考えを明確に表現するとは、話合いの場面で聞き手を意識しながら、自分が伝えたい思いや事柄などを、理解しやすい表現を考え工夫して伝えることである。その際、聞き手は話し手の発言を聞き分け、聞き分けた内容をふまえて自分の考えを広げたり深めたりしていく。その考えを、次には話し手となって発言し、話合いを成立させていくのである。この場合「明確な表現」をするには、自分の考えや気持ちをはっきりさせておくことが大切である。そのためには、まず相手に伝えるべきことを正確につかんで整理しておくことである。そして、相手がそれをどう考え受け止めるか、自分は何のためにどんな場面で表現するのかをはっきり意識して言葉を工夫し表現するのである。

明確な表現に必要なものとは、具体的には次の通りと考える。

技能的側面	内容的側面
①相手や場面に応じて、話す速度や音量、言葉の調子、間の取り方などを工夫して話す。 ②相手を見て、大切なことはメモをとりながら聞く。 ③分からないことは質問をして補う。	①相手や場面に応じて使用する語句を工夫して話す。 ②相手や場面に応じて文や言葉の順序を工夫して話す。 ③情報を整理しながら聞く。 ④話題をとらえて聞く。

(2)「グループワーク・トレーニングで『話す・聞く』行為を振り返る活動」とは

本研究のＧＷＴとは、グループの中で役割を分担し、ゲーム的手法で言葉やその表現方法を工夫することによって、決められた時間や発言回数の中で目的の情報を伝え、振り返り判定する活動である。具体的には、グループの中で話し手・聞き手・観察者の役割を分担する。話し手は送信用の絵を見て言葉でそれを伝える。聞き手はそれを聞き取り、白紙に絵を描く。その際分からないことがあったら限られた発言回数の中で質問できる。観察者は話し手、聞き手の発言をメモし、伝わり具合を判定する。できあがった絵と観察者の振り返りカードにより、グループの中でその伝わり具合を判定し振り返る。生徒はこの振り返りを通して「話す・聞く」という行為にとって重要な言葉や表現の工夫に気付き、自分たちの話合いの改善策 （上記技能的側面①～③、内容的側面①～④）を導き出す。

次に、この改善策を生かし、再度ＧＷＴを行う。元の絵とできあがった絵とを見比べ「振り返りカード」に記入していく過程で、自分たちの改善策が正しかったことが実証され、生徒は言葉を選び表現を工夫することの難しさや面白さ、聞き分けることの大切さを実感し、場面に応じた明確な表現とは何かをつかむ。それはまた、次の話合い活動を実践していく上で「話合いをするときはここに注意しよう」「今度はできる」「早く実際の話合い活動の場面に生かしてみたい」など、場面に応じた明確な表現をしようという意欲へとつなげることができる。

さらに、ＧＷＴで培った力を基に実際の話合いを行うことで、意識して言葉を選び、表現を工夫したり（技能①内容①②）、聞き分ける工夫（技能②③、内容③④）をしたりすることができる。そして、グループで互いの「話す・聞く」行為を振り返ることにより、場面に応じた明確な表現ができるようになる。

本研究では、話し手・聞き手それぞれの変容する要因について、前述した両側面から活動を振り返り、明確に表現できる生徒の育成を目指すものである。

なお、一般にＧＷＴとは、限定された時間の中で、また、限定された場所で、リーダーがグループに働きかけ、グループの力と相互作用を利用してメンバーの集団体験による自己成長を図り、思考、態度、行動、感情に変化を起こさせる教育的な過程である。」(『リーダーのグループワーク・トレーニング』　坂野公信共著)。この過程のうち、特に「情報を組み立てる」「聴き方を学ぶ」といった能力の育成を本研究で取りあげてみたい。

以上のように「話す・聞く」行為を振り返る活動を取り入れることにより、生徒は、聞き手としての在り方の重要性に気付く。また、話し手として相手に何かを伝えるときには、まず表現したいものを自分の中で明確にさせる必要があるということが分かる。次に、それをどう言葉で表現すれば聞き手に分からなってもらえるのか考え､工夫すべきであることが分からなる。そうして、自分の考えを明確に表現するようになると考える。

2　研究の方法

研究の見通しに基づき、以下の計画で授業実践を行い、検証する。

(1)　授業実践計画と検証の計画

対　象	吾妻町立岩島中学校第２学年	時　　数	12時間
単元名	単元五　「町の物語」を探る	実施時期	10月
検証項目	検 証 の 観 点		検 証 の 方 法
見通し１	つかむ過程で、「話す・聞く」という行為にとって重要な言葉や表現の工夫に気付くよう､グループで情報を模擬的に伝え合い、観察者・話し手・聞き手の評価に基づいて、自分の「話す・聞く」行為を判定し振り返る活動を行ったことは、場面に応じた明確な表現をするために必要なものに気付くことに有効であったか。		・場面に応じた明確な表現のために必要なものに気付いたか、話し手・聞き手用振り返りカードの明確な表現に関する言葉について分析する。 ・話合いの中の明確な表現に関する発言や表情について分析する。
見通し２	深める過程で、言葉を選び表現を工夫することの難しさや面白さ、聞き分けることの大切さを実感できるよう、振り返りで気付いたことを生かすグループでの模擬的な伝え合いの場を設定し、振り返り判定する活動を行ったことは、場面に応じた明確な表現とは何かつかむことに有効であったか。		・話し手が聞き手に理解してもらえるように発言を工夫しているか、また、聞き手が話し手の意図を的確にとらえているか観察者用振り返りカードの評価や明確な表現に関する言葉、話し手と聞き手の発言、聞き手の絵を分析する。
見通し３	迫る過程で、意識して言葉を選べるよう、表現を工夫したり、聞き分ける工夫をしたりするグループでの実践的な話合いの場を設定し、振り返る活動を行ったことは、場面に応じた明確な表現をすることに有効であったか。		・話し手が聞き手に理解してもらえるように発言しているか、また、聞き手が話し手の意図を的確にとらえているか記録者用振り返りカードの評価や明確な表現に関する言葉、発言を分析する。

(2)　抽出生徒

A男	様々なことに興味をもち、次々と発想を広げすぎてしてしまうことに課題があると考える。そこで、話し手の発言を聞き分け、分からないところを簡潔な言葉にまとめて聞き返すことができるようにしたい。
B男	自分の考えに自信があり、他の意見よりも自分の考えを優先させてしまうことに課題があると考える。そこで、話し手の発言に耳を傾け、自分の考えと比べた上で、理解しやすく聞き手に分かってもらえるような表現でまとめて 話せるよう支援したい。

Ⅴ　研究の展開

1　単元設定の理由

本単元「『町の物語』を探る」は、どんなものにも歴史があり、それにかかわる人々の思いがあることに気付かせることをねらいとしている。その中の題材「物語を掘り起こそう」での話合い活動を通して、自分の考えを聞き手に誤解されずに分からなってもらえるような表現でまとめて伝えられるようにし、また、話し手の発言を聞き分け、聞き分けた内容をふまえて自分の考えを深め、またそれを伝えられる力を育成したいと考えた。

ここでは、「自分たちの手で町の歴史や物語を掘り起こす」ための活動を行う。これは第１学年の「Ｉタイム」（総合的な学習の時間）で生徒が興味をもって調べてきたことを生かし発展させることができる学習である。「町の物語」をまとめるというはっきりした目的をもって話し合うため、生徒は町に対する自分の思いや考えをうまく伝えたいという気持ちを強くもつと考える。また、人の考えを知り、意見を述べたり自分の考えと比べたりしたいと思うと考え

られる。自分の考えや思いをうまく伝えられ、聞き分けられるようにするために「話す・聞く」行為を振り返る活動を設定した。そこでの自己評価や相互評価を通して「話す・聞く」行為の改善点に気付き、明確な表現を工夫するようになると考え本単元を設定した。

2　単元の目標及び評価計画

目標	話し手は、自分の考えを聞き手が理解できるような表現でまとめて伝える一方、聞き手は話し手の発言を聞き分け、聞き分けた内容をふまえて自分の考えを深めることができる。	
評価規準	おおむね満足している	十分満足している
	関心・意欲・態度 ・自分の考えを整理して述べようとしている。 ・話し手の発言をメモをとりながら聞き、話の内容や意図を聞き分け、互いの共通点や相違点を探そうとしている。	・自分の考えを整理し、積極的に述べようとしている。 ・話し手の発言をメモをとりながら聞き、話の内容や意図を聞き分け、互いの共通点や相違点を幾つも探そうとしている。
	話す・聞く ・話し手は、聞き手が理解しやすい表現を工夫している。 ・聞き手は、話し手の話の内容や意図を聞き分け、互いの共通点や相違点に気付き、自分の考えを深めている。	・話し手は、言葉を選び直したり、言葉数を増やしたりして聞き手が理解しやすい表現を多数工夫している。 ・聞き手は、話し手の話の内容や意図を聞き分け、互いの共通点や相違点に気付き、自分の考えを深めた上で自分の意見として述べている。
	言語事項 ・自分の考えや意図を伝えるのにふさわしい語句や文の順序を考えられる。	・自分の考えや意図を伝えるのに最適な語句や文の順序を何度も考えて工夫できる。

3　指導計画（全12時間予定）

過程	時間	ねらい	学習活動	教師の支援	評価項目〔方法〕
つかむ	1	（省略）			
	2	見通し1 場面に応じた明確な表現をするために、聞き手、話し手それぞれに何が必要か気付く。	○話し手・聞き手・観察者の３人グループで絵を見て言葉で伝え、振り返る活動を行う。 ・話し手は送信用の絵を見て、聞き手に伝える。聞き手は話し手の言葉を受け、白紙に絵を描く。 ・観察者は話し手・聞き手の発言をメモし、振り返りカードに伝わり具合を判定しながら発言について気付いたことなどを記入していく。 ・話し手・聞き手は、できあがった絵と送信用の絵を見比べ、観察者の振り返りカードの、話し手の発言や聞き手の質問を見て、振り返りカードに記入する。 ・振り返りカードに書いたことをお互いに発表しながら、グループで活動を振り返り、伝わり具合を評価・判定する。 ○グループで出された意見をクラス全体の場で発表し、自分たちの話合いの改善点を挙げ、自分の考えを明確に伝えるためには何が必要かクラス全体で振り返り話し合う。	関絵を正確に伝えるための言葉探しに十分時間をとるようにする。 話メモは簡潔に、重要な言葉だけにするよう注意する。 話絵の出来不出来の原因を描画の力ではなく、自分たちの「話す・聞く」行為について探すようにする。 話グループでは、観察者の振り返りカードを中心にして話合いを進める。	話自分たちの「話す・聞く」行為の問題点・改善点に気付き、カードに記入している。〔観察・振り返りカードの記述〕 関活動を振り返って自分の考えを明確に伝えるために必要なものについて積極的に意見を述べたりメモしたりしようとしている。　〔観察・発言〕
深める	3	見通し2 言葉を選び表現を工夫することの難しさやおもしろさ、聞き分けることの大切さを実感し場面に応じた明確な表現とは何かをつかむ。	○前時の改善点を生かし、話し手・聞き手・観察者の３人グループで絵を見て言葉で伝え、振り返る活動を行う。 ・話し手は送信用の絵を見て、聞き手に伝える。聞き手は話し手の言葉を受け、白紙に絵を描く。 ・観察者は話し手・聞き手の発言をメモし、振り返りカードに伝わり具合を判定しながら発言について気付いたことなどを記入していく。 ・話し手・聞き手は、できあがった絵と送信用の絵を見比べ、観察者の振り返りカードの、話し手の発言や聞き手の質問を見て、振り返りカードに記入する。 ・振り返りカードに書いたことをお互いに発表しながら、グループで活動を振り返り、伝わり具合を評価・判定する。 ○クラス全体で、聞き手に理解してもらえるように発言できたか、また、話し手の意図を的確にとらえて発言できたか話し合い、次時の活動への意欲づけをする。	関前時の振り返りを本時の活動に生かせるよう、振り返りで出された改善点を発表させ、まとめて黒板に掲示し確認する。 関絵を正確に伝えるための言葉探しに十分時間をとるようにする。 関聞き手は話し手の発言をメモしながら聞いてもよいことを助言する。① 話聞き手は、話し手の発言で分からないことがあったら質問や確認の発言をするよう助言する。②（①②については黒板に掲示する。） 話グループでは、観察者の振り返りカードを中心にして話合いを進めるようにする。 話本時の振り返りで出された意見を示し、前時の振り返りの改善点と比べながらその有効性を確認し、次時の話合い活動に生かすよう助言する。	話話し手の発言を聞き分け、質問や確認の発言をしている。〔観察〕 言聞き手に分かりやすい言葉や表現を選ぶことができる。〔発言・観察・振り返りカードの記述〕 関本時で分かったことを次時の実際の話合いで生かそうとしている。〔発言・観察・振り返りカードの記述〕
		見通し3 実際の話合いの中で場面に応じた明確な表現	○「町の物語」を掘り起こすための話題についてクラスで出し合い、グループごとに話題選びのための話合いをする。 ・物語を掘り起こすための話題をクラス全体で出し合う。 ・グループごとに、クラスで取り組みたい話	話前時までの振り返りで出された改善点を掲示し、改善点を意識して話合いを進めるようにする。 関事前に、自分たちの町に暮らす人や働く人、仕事について	関自分の考えを明確にし、積極的に述べようとしている。〔観察・メモ〕 関話し手の発言をメモをとりながら聞こうとしている。〔観察・ノートのメモ〕

迫る	4	を工夫する。	題を五つ選ぶための話合いをする。 ・記録者は話し手・聞き手の発言をメモし、振り返りカードに伝わり具合を評価しながら発言について気付いたことなどを記入していく。 ・改善点がグループの話合いの中で生かされていたかどうか確認する。 ・グループで振り返りカードを用い，話合いのよかった点や改善点について振り返る。	マッピングの方法を用いて幅広く話題探しをし、イメージを広げておく。また、総合的な学習の時間で培った力を生かせることを助言する。 関教師は十分に町の実態を調査し、話題を補足できるようにしておく。 関挙げられた話題は短冊黒板などを使い、分類整理して示す。 話改善点が話合いの中で生かされていたかどうか振り返りカードで確認する。	話聞き手は、発言を聞き分け、質問や確認の発言をしている。〔観察・発表〕 言聞き手を納得させるため、話し手は分かりやすい言葉や表現を選ぶことができる。〔観察・発表・ノートのメモ〕 話自分たちの活動を振り返り、よかった点や改善点を、振り返りカードに記入している。〔観察・発表・振り返りカード〕
	５～12時間目は省略				

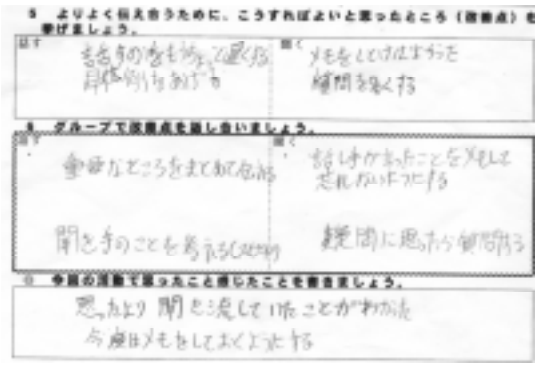
Ⅵ　研究の結果と考察

1　「話す・聞く」という行為にとって重要な言葉や表現の工夫に気付くよう、模擬的に伝え合い、観察者・話し手・聞き手の評価に基づいて、自分の「話す・聞く」行為を判定し振り返る活動を行ったことは、場面に応じた明確な表現をするために必要な要件に気付くことに有効であったか

生徒は絵を見て言葉で伝えた後、送信用の絵と描いた絵とを見比べ、観察者のメモを見ながらグループで伝わり具合を評価・判定し、活動を振り返った。

Ａ男は、聞き手の立場で、うまく描けなかったことでやる気を失いかけていた。しかし、「初めはよく書けていたよ。」という観察者の励ましに、「初めは言っていることが分からなったから。だんだん何言ってるか分からなくなったんだ。」と発言していた。教師が「それじゃあ何でだんだん言っていることが分からなくなっちゃったんだろう。」と聞くと、「集中力が切れて聞き流しちゃったんだ。メモすればよかった。」と答えた。「分からなかったら質問すればよかったのに。」と話し手の生徒が言うと、「話し手が言ったことを考えていたら説明が次に進んじゃって言ったことが分からなくなったんだ。だから質問しようにも何を聞いたらいいか分からなかったんだ。」と答えた。観察者が「もっとゆっくり言ってあげれば分かったかな。」「分かりやすい具体例を挙げればよかったね。」と言うと、「うん。それでメモすればよかった。全部じゃなく大事なところだけでもメモすれば忘れなかったと思う。今度はそうしよう。」と発言していた。話合いの中で振り返りカードの改善点に、「話し手が言ったことをメモして忘れないようにする」「疑問に思ったら質問する」「重要なことをまとめて伝える」「聞き手のことを考える（スピード）」と記入していた。

資料１　Ａ男の振り返りカード



Ｂ男は、聞き手の立場で、話し手から「私の言うことを黙って聞いて描いてね。」とアドバイスをもらいながら活動していた。観察者から「自分の想像で描いているよ。よく聞いて分からないところは質問した方がいいよ。」と意見をもらって初めて自分が思い込みをしていることに気付いた。振り返りの話合いの中では、観察者から「質問が少なかったよ。５回目と６回目は質問できていたけれど、質問の意味がよく分からなかったから言い方を工夫するといいと思う。」と意見をもらった。話し手は「私の話を最後まで聞いてほしい。黙ってメモをとるといいと思う。」と発言していた。

Ｂ男は二人の意見を聞き、また、送信用の絵と自分の絵が全く違うのを見て、改めて自分の思い込みを自覚していた。「話し手の話を自分ではよく分かったと思っていたんだ。観察者

用の振り返りカードを見たら自分がよく聞いていなかったって分かった。」「そうだと思い込まないで質問すればよかった。」「質問は紙に書いてまとめてからすればよかった。」と発言していた。振り返りカードの改善点には「話は最後まで聞く」「質問の言い方を工夫する」「メモをとる」「大きな声で・スピード」と記入していた。

以上のことから、観察者・話し手・聞き手の評価に基づいて、自分の「話す・聞く」行為を判定し振り返る活動を行ったことにより、自分を客観的に見つめることができ、「間・速さ・音量に注意する」「メモ」「質問」「語句を工夫する」「話すことをまとめて言う」「話の重要な点を聞き漏らさない」など場面に応じた明確な表現をするための要件に気付くことができたと考える。

2　言葉を選び表現を工夫することの難しさや面白さ、聞き分けることの大切さを実感できるよう、振り返りで気付いたことを生かす活動を行ったことは、場面に応じた明確な表現とは何かつかむことに有効であったか

前時での振り返りの中で気付いたことを生かせるよう、再度伝え合い活動を行った。

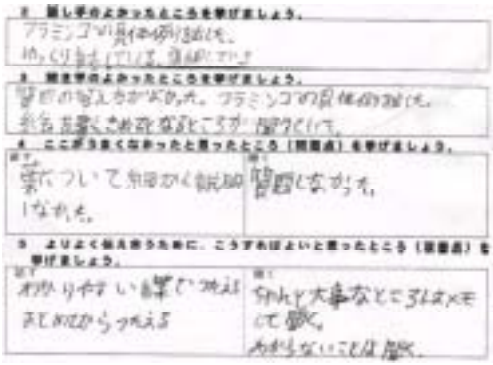
Ａ男は観察者の立場となった。振り返りで「ぼくのときよりよく伝わっている」と評価した。教師が「それはなぜだろう。」と問うと、前時の振り返りカードに記入したことを見ながら、話し手は、あらかじめ伝えたいことをメモしてから伝えていること、内容のまとまりごとに間をとり、重要な点を強調していること、具体例を示していることを挙げていた。例えば、「～のような」というように聞き手がイメージしやすいものを挙げるということである。また、聞き手は、メモをとっていたことと伝えたいことをうまく表現していることを挙げた。

Ｂ男も観察者の立場になり、聞き手と話し手それぞれを「質問の内容がよかった・冷静に伝えられた。」と評価していた。その理由として、聞き手が相手の言葉を受けて何が大事なことなのかとらえられていたこと、話し手が分かりやすい具体例を示して説明したことを挙げた。ただ「大きい、小さい、長い」と言うのではなく、「～センチくらいの」と具体的に説明したり、質問したりすることが必要であると発言していた。

Ａ男とＢ男は、観察者という第三者的な立場に立ち、「話す・聞く」行為を客観的に見つめた。前時の振り返りで気付いたことを思い出し、「話す・聞く」行為についての改善点が正しいと確認でき、明確な表現についてより具体的に考えられたことが分かる。

以上のことから、振り返りで気付いたことを生かす活動を行ったことで、場面に応じた明確な表現とは何かつかむことができたと考える。

資料2　Ｂ男の振り返りカード



3　意識して言葉を選べるよう、表現を工夫したり、聞き分ける工夫をしたりするグループでの実践的な話合いの場を設定し、振り返る活動を行ったことは、場面に応じた明確な表現をすることに有効であったか

「町の物語」を掘り起こすための話題についてクラスで出し合い、次にグループごとに話題選びのための話合いを行った。生徒はグループの中で話題を五つに絞るために、自分がよいと思う話題を推薦する。話題を推薦するときには聞き手を納得させる理由を述べなくてはならない。生徒は言葉を選び、自分の選んだ話題の価値を説明した。その際、一人が記録者

として話合いで出された意見を記録した。

班の中でＡ男は、駅について調べたいと発言したが、「駅はどこにもあるし、無人駅で調べにくいと思う。」と反対された。それに対して「どこにもあるけどみんな違うと思う。岩島に住む人と駅とのかかわりを調べたい。」と主張した。また、「駅の近くの人なら駅がどう変わったか知っていると思う。岩島の人の生活が駅の変化に出ていると思う。」と話し手の意図をとらえて自分の意見を言うことができた。振り返りでは「集中して聞けたので発言できた」「言いたいことや相手の言ったことをメモしておいたのがよかった」と書いていた。

Ｂ男は、「ぼくは○○さんについてがいいと思う。その理由は、以前総合的な学習でインタビューして、岩島の麻を守り続ける熱意に感動したから。」と発言した。同じ班の生徒に、具体的にはどんなところに熱意を感じたのか聞かれ、「麻作りに対する誇りや自信を感じたから。」と、落ち着いて話していた。班の人から「土偶が岩島ならではでいいと思う。」という意見が出ると「それは日本の歴史の中でも価値があるからいいと思う。」と相手の話に耳を傾け、「でもなぜ土偶が岩島ならではなのか。土偶は日本のいろいろなところでみつかっていると思う。」と自分の意見を簡潔に述べたため、「発言が分かりやすくなった」「人の意見をちゃんと聞いて発言している」とグループで評価されていた。振り返りでは「いい意見が言えた。話合いがバージョンアップした。」と書いていた。教師がそれはどういう意味か問うと、「前はお互いに自分勝手なことを言っていたので話合いがまとまらなかったけれど、今度はみんなが相手に分かりやすく話そうとしているからまとまって面白い。」と答えた。

以上のことから、グループでの実践的話合いを行い、振り返る活動を行ったことで、場面に応じた明確な表現をすることができたと考えられる。

資料３　Ｂ男の班の振り返りカード

Ⅶ　研究のまとめと今後の課題

○　「話す・聞く」行為を振り返る活動にＧＷＴを取り入れることによって、生徒は、発言は相手に伝わって初めて意味をもつということ、相手が理解しやすい表現を工夫しなければならないことを意識するようになった。また、話合いはお互いの考えを深めていくものだという意識も生まれた。適切な語句を選び、順序を工夫するだけでなく、話速度や音量、言葉の調子、間の取り方も発言の伝わり方に大きく影響することが分かり、工夫して行うようになった。このことから、「話す・聞く」行為を振り返る活動にＧＷＴを取り入れたことは有効であったと考える。

○　本研究で育成された力がどのような話合いの場面でも発揮できるよう、振り返りの時間を大事にして、意識を喚起していく必要がある。しかしながら、「明確な表現」を強調しすぎると話合いの流れが損なわれるおそれがある。また、ＧＷＴをどの単元の中にどう位置づけ、時間をどのように確保するかが本研究の課題である。

＜主な参考文献＞

・坂野　公信　共著　『リーダーのグループワーク・トレーニング』